

令和5年度～令和6年度  
秋田県立能代支援学校 研究報告（概要版）

# 児童生徒の 学びが「見える」授業づくり ～指導と評価の一体化による確かな成長を目指して～

## Summary

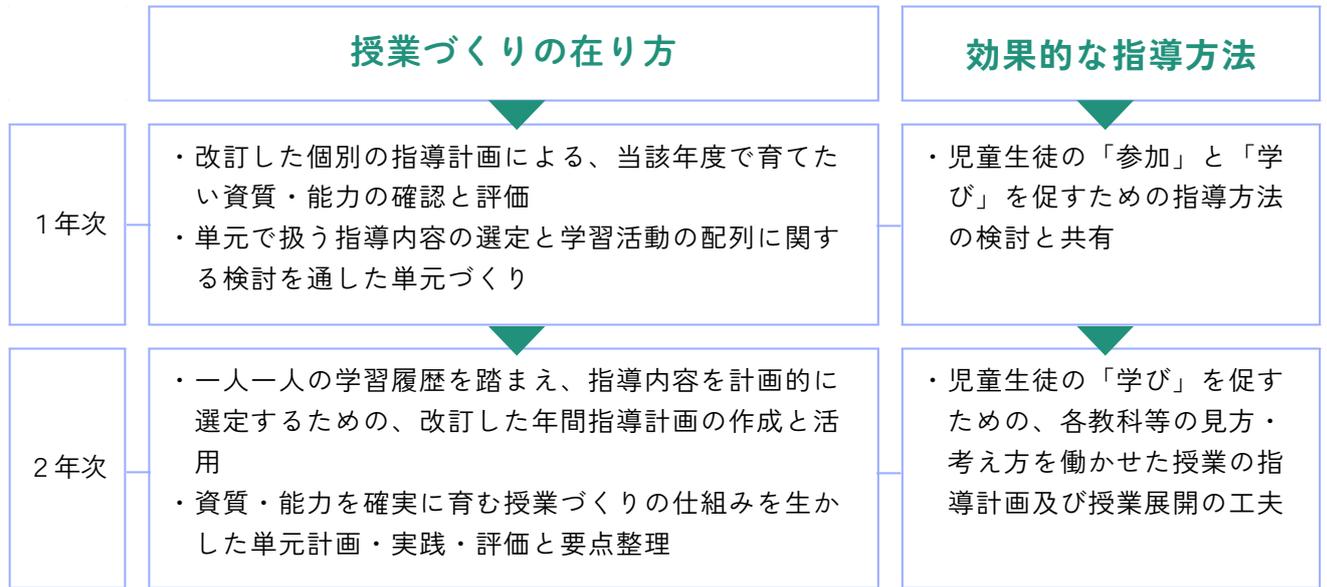
本校では、学習指導要領に示された各教科等の資質・能力を育成するために、各教科の評価規準を集約した「観点別学習評価表（学びの履歴シート）」を作成し、指導と評価の一体化を図るための教育体制の整備を進めています。

本研究では各教科等を合わせた指導を取り上げ、各教科等の目標を確実に達成し、資質・能力を育成できるよう、観点別学習評価表と各教育計画の内容を関連付け、それらをツールとした授業実践に取り組みました。実践を通して、各教科等の資質・能力の育成を図るための授業改善と、日常的に活用できる平易な授業づくりの仕組みの構築、児童生徒の「参加」と「学び」を促す指導方法を検討しました。

## 目的

一人一人の学習状況を評価規準に基づいて的確に捉え、資質・能力を育むための授業づくりの在り方や効果的な指導方法を見いだす。

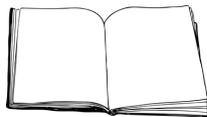
## 計画



## 実践

### 観点別学習評価表の活用

- ・学びの履歴シートとしての使用による、一人一人の学習履歴や学習状況の把握
- ・個別の指導計画との関連付けによる、年度で育成する資質・能力の明確化
- ・年間指導計画との関連付けによる、単元で扱う各教科等と内容のまとまりの可視化



### 授業づくりの仕組みの考案

- ・各教育計画との関連付けによる、指導と評価の一体化の推進と日常的な仕組みの活用
- ・指導と評価の一体化を図るための工夫
  - ▷活動目標を廃し、各教科等の目標（育成する資質・能力）を単元目標として設定
  - ▷小単元ごとに、各教科等の内容のまとまりを具体化
- ・学習指導案の様式改訂による、本時計画の検討時間の確保

### 効果的な指導方法の検討・共有

- ・児童生徒の「参加」と「学び」を促すための具体的な手立ての確認と内容整理による、「能代スタンダード」の作成
- ・研修会の実施による、指導方法に係る実践共有や教材作成
- ・各教科等の見方・考え方を働かせた授業の在り方の検討による、環境設定や学習活動等の充実

～学部の実践と児童生徒の変容から～

#### 小学部 生活単元学習（1・2年）

- ・児童の思考に沿った授業展開、気付きを促す発問や言葉掛けにより、試したり予想したりして活動できるようになった。

#### 中学部 生活単元学習（2年）

- ・個別の手立てを具体化したことで、学習内容を学校や家庭の生活場面の中で関連付けて考えたり発言したりする場面が増えた。

#### 高等部 作業学習（縫製班）

- ・実物や外部講師の活用、課題に即した役割設定、デジタル作業日誌の使用等により、顧客や工程を意識し、自分の意見や考えを表現しながら作業に取り組めるようになった。

# 全国公開研究会

**期 日** 令和6年12月12日 来校・オンデマンド配信にて開催（参加者約140名）  
**内 容** 研究報告、授業公開、研究協議会、指導助言、講評・講演  
**提示授業** 小・中学部：生活単元学習 高等部：作業学習

## 講評・講演

「児童・生徒の資質・能力を育むための知的障害教育  
の考え方～指導と評価の一体化を踏まえて～」  
文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課  
特別支援教育調査官 **加藤 宏昭 氏**

## 指導助言

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
研究事業部 総括研究員 **武富 博文 氏**

## 助言の内容から

- ・学校の教育目標があり、教育課程があり、授業がどこに位置付いているのかを把握して授業を行う必要がある。
- ・学習指導要領に示されている各教科等の内容はきちんと取り扱う。
- ・12年間を通して学びを進めていくための、特別支援学校版の各教科等の指導計画を作成する必要がある。

## 助言の内容から

- ・授業や単元づくりで「習得・活用・探求」という学びのプロセスをつくる。ポイントは「問い」や「課題」の設定である。
- ・深い学びと各教科等の見方・考え方は切り離せない。この点を顕在化させること。

## 参加者アンケートから

- ・指導と評価の一体化のために、個別の指導計画や年間計画の形式まで見直して、一貫して各教科の指導目標で評価していく形となっており、授業づくりにまで使える流れ、非常に参考になった。学びの履歴シートを作ることで、一人一人の過去に学んできたことが明確になり、指導要領の取りこぼしている点が明らかになって学習計画を立てていきやすく、とてもよいシステムだと思った。
- ・指導と評価の一体化について、手本となる一つの形を目指しているものと思った。
- ・評価がしやすくなり、業務の効率化にもつながる取組だと思った。
- ・資質・能力を明確にした授業とはどのようなものかを実感できた。活動はこれまでと同じでも、ねらいで教師の発問が変わることを実感した。
- ・もう少し、生徒との対話や、やりとりがあって、生徒の疑問から授業をつくっていった方がいいのかなと思った。
- ・教科の内容を押さえながらも、一人一人が主体的に学習に取り組む場面づくりはどうあればよいか、考えさせられた。

# まとめ

## 成果

- ・観点別学習評価表の活用による、育成する資質・能力の明確化
- ・資質・能力の育成に迫るための、単元計画の検討や改善の充実
- ・仕組みの考案による指導と評価の一体化と「能代スタンダード」の推進

## 課題と今後の展望

- ・学校の全体的な指導計画に基づく、授業づくりの仕組みの確立  
→12年間を見通した各教科等の「標準年間指導計画」の作成と運用
- ・各教科等の見方・考え方を働かせた授業に係る理解と実践の推進  
→深い学びにつなげていくための指導の要点の理解と授業技術の向上 等

研究内容の詳細は、研究紀要「しらかみ」第31号をご覧ください。